

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：民生費 項：児童福祉費 目：児童保護費

事業名 児童養護施設入所児童等育成支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

子ども・女性部 子ども家庭課 児童養護第二係

電話番号：058-272-1111(内3559)

E-mail：c11217@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,640 千円 (前年度予算額： 8,640 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,640	0	0	0	0	0	0	0	8,640
要求額	8,640	0	0	0	0	0	0	0	8,640
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・児童養護施設入所児童等にとって習い事(文化、スポーツ等)を行うことは、その後の進路選択や自立生活を考えることで重要なことであるが、金銭的負担が大きく、児童の希望どおりの習い事を行うことが出来ない状況にある。
- ・多くの児童養護施設入所児童等が習い事に通う環境を提供し、進路選択や自立生活を考えるうえでのきっかけとする必要がある。

(2) 事業内容

- ・児童養護施設入所児童等のうち、習い事をしている児童に対して費用を補助する。
(年上限 96千円/人)

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10 / 10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
扶助費	8,640	・ 習い事助成 96千円×90人=8,640千円
合計	8,640	

決定額の考え方

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
・多くの児童養護施設入所児童等に対し、習い事に通う環境を提供し、進路選択や自立生活を考えるうえでのきっかけとなるようにしたい。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

多くの児童養護施設入所児童等が習い事等に通うことができることが目標であり、指標設定には、なじまない。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	
令和5年度	児童養護施設等に入所している61人の児童に対して、2,568,000円を支払った。
令和6年度	児童養護施設等に入所している81人の児童に対して、4,929,000円を支払った。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない	
(評価) 3	令和5年度(初年度)実績61名であったが、令和6年度は81名と増加しており、事業の周知と活用が進んでいる。
・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない	
(評価) 3	令和7年度に交付申請を行った児童のうち75%は前年度からの継続受講であり、継続した学びの機会を提供できている。
・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている	
(評価) 2	申請方法や時期の改善など、事業の効率化を図っている。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 習い事を行う児童の増加に伴い、施設職員や里親による送迎が必要になる場合があること、及び、月謝の支払い等事務的な業務が上乗せになっていることに関し、負担軽減について継続して検討する必要がある。

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 複数年度の事業期間の中で、効果を検証し、必要な対策を講じていく。
